

本邦工學會並に帝都水道の恩人

古市公威博士の死を悼む

本邦水道界の人々は故中島銳治博士の名は承知してゐるが、故古市公威博士の名は水道とは縁遠き感を懐かしむる極みなしとしない。何故なら古市男が東京市水道の改良工事のため盡瘁されたことは、明治 20 年代に溯らなければならぬからである。加之、古市男は東京市水道改良工事の工事長として縦横放腕を振はれたけれども、故中島銳治博士の如く全国的に活動されず、河川工事、砂防工事その他土木行政に出色の經綸を行はれたにも不拘、水道界と關係された期間が極めて短かつたので、水道界と古市男との關係を知らぬ人もなしとしない。乍併東京市水道の礎石を築かれた功績は炳として永久に忘れられてはならないのである。本會は帝都水道の恩人たる男爵古市公威博士の御逝去を知り、哀惜の念に不堪古市男の御肖像並にその年譜表を掲げて記念することにした。

年 譜 表

安政元年 姫路藩士古市孝氏の長男として誕生。
明治 2 年 一ツ橋開成所に入所
" 3 年 10 月藩の貢進生とならる。
" 8 年 7 月文部省留學生としてフランスに赴かれ「エコール・サントラル」へ入學せらる。
" 12 年 この年 8 月フランス農商務省より「アンジュエル」の學位を得らる。
" 13 年 7 月フランス文部省より「リサンシエ」の學位を得らる。同年 10 月フランスより歸朝、12 月内務省土木局雇を拜命せらる。
" 17 年 内務省三等技師に任ぜらる。
" 19 年 5 月工科大学長を兼任せらる。
" 21 年 日本工學會の幹事に就任、またこの年 8 月東京市區改正條例公布せられ、委員會の設置を見るや、委員長芳川顯正氏の主張に基き上水下水の調査委員會を設置すること

となり、同年 10 月故バルトン氏、故長與專齋氏等と共に委員に擧げらる。同年 11 月工科大学長を辭任、時の内務大臣山縣有朋公に隨行して土木行政視察のため渡歐せらる。この年 12 月東京市上水道改良工事に関する調査完了す。

" 22 年 7 月東京市下水道に関する調査完了す。古市氏歐米より歸朝されるや、同年 10 月再び工科大学長を兼任せらる。

" 23 年 6 月内務省土木局長に就任せらる。

" 24 年 9 月 25 日東京市會に於て水道改良工事を施行するに當り、工事長 1 名を置く決議をなし、但しその工事長は「日本帝國人」に限ることを條件とす。茲に於て 10 月 7 日内務省土木局長たりし古市氏は工事長兼任とならる。而して政府の急電に依り留學期間を短縮し前年 11 月急送ドイツより歸朝された中島銳治博士（當時留學の理學士）は、古市氏の下に主任技師として同年 12 月就任、帝都水道改良工事に従事せらる。

" 31 年 7 月工科大学長を辭任せらる。

32 年—39 年の間は 34 年日本工學會副會長兼務、工學學校管理長兼任等の外、内務省から逕信省へ、逕信省から逕信院へと移され、逕信大臣、逕信院副院長、逕信院理事長、逕信院事務局長等に就任せられ、また 37 年東京市水道局長の職に就かる。

" 39 年 帝國學士院會員に列せらる。

大正 7 年 帝國學士院第二部長、理化學研究所長、日本工學會の會長に就任せられ、多年國家に對する勳功に依り男爵を授けらる。

" 11 年 日本工學會は組織を変更し、變更後最初の理事長に就任せらる。

" 13 年 樞密顧問官に列せらる。（中略）

昭和 9 年 1 月 28 日午前 8 時享年 81 歳を以て逝去せられ、長き邊では男生前の功績を思召され旭日大綬章を授けらる。以上